

没後 20 年記念シンポジウム

# 失われた父を求めて

—ダニロ・キシユ 収容所の詩学—



“ただ一人のユーゴスラヴィアの作家”——

ダニロ・キシユ Danilo Kiš の文学は、人生から切り離すことができない。1935 年、ユーゴスラヴィアとハンガリーとの国境の町スポティツァで、ユグヤ人の父とモンテネグロ人の母のあいだに生まれる。父はアウシュヴィッツに送られて消息を絶った。失われた父と少年時代をモチーフとする家族三部作——『庭、灰』、『若き日の哀しみ』、『砂時計』——で作家としての地位を確立。さらに、短篇集『ボリス・ダヴィドヴィチの墓』、『死者の百科事典』で世界的名声を博した。パリに移り住んでから 10 年後の 1989 年、追い求め続けた父と同じ 54 歳のときに、死を迎える。それは、また、帰属を表明していたユーゴスラヴィアの崩壊と時を同じくしていた。しかし、国家解体後、キシユの文学は、国内外でますます評価が高まっている。

キシユ没後 20 年の今年、代表作の一つ『庭、灰』が、池澤夏樹＝個人編集の世界文学全集（河出書房新社）の一冊におさめられた。家族三部作の日本語訳がでそろったことを記念し、『庭、灰』の訳者、山崎佳代子さんをお招きして日本で初めてとなるキシユのシンポジウムを行う。

日時：2009 年 11 月 21 日（土）14:30—17:30（開場 14:00）

場所：東京大学（本郷キャンパス）法文 2 号館 2 階 2 番大教室

（入場無料・予約不要）

<プログラム詳細は裏面をご覧ください>

## プログラム

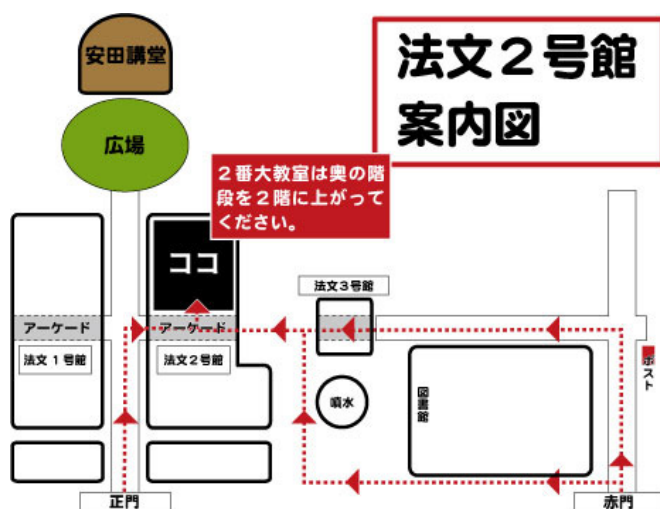
- 14 : 30-15 : 30 映像とともにたどるダニロ・キシユの生涯と作品  
イントロダクションと解説 (奥彩子)
- 15 : 30-15 : 45 休憩
- 15 : 45-16 : 45 講演「森の美学」(山崎佳代子)
- 16 : 45-17 : 30 討議と質疑応答 (奥彩子、柴田元幸、沼野充義、山崎佳代子)

◆山崎佳代子◆ ベオグラード大学文学部教授。詩人、翻訳家。2003年、ベオグラード大学で博士号取得(博士論文『1920年代日本アヴァンギャルド詩の発展——セルビア文学との比較考察』)。著書に、詩集『鳥のために』『産砂RODINA』『薔薇、見知らぬ国』『秘やかな朝』『アトス、しずかな旅人』(いずれも書肆山田)、『そこから青い闇がささやき』(河出書房新社)。訳書に、キシユ『若き日の哀しみ』『死者の百科事典』(東京創元社)など。

◆奥彩子◆ 大阪大学人間科学研究科特任研究員。東欧文学。2008年、東京大学大学院総合文化研究科で博士号取得(博士論文『境界の作家ダニロ・キシユー「ユーゴスラヴィア」から「中央ヨーロッパ」へ』)。訳書に、キシユ『砂時計』(松籟社)。著書『境界の作家ダニロ・キシユ』(松籟社)を近刊予定。

◆柴田元幸◆ 東京大学文学部教授。現代文芸論／現代アメリカ文学。

◆沼野充義◆ 東京大学文学部教授。現代文芸論／ロシア東欧文学。



〒113-0033  
東京都文京区本郷 7-3-1

【交通】地下鉄丸ノ内線・大江戸線  
「本郷3丁目」、南北線「東大前」  
(いずれも下車、徒歩10分。)

\*法文2号館は、東大正門から徒歩2分。  
正門から安田講堂(時計台)に向かって直進、右側二つめの建物です。建物中央のアーケードからお入りください。2番大教室は2階にあります。

東大構内案内図：[http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_01\\_02\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_01_02_j.html)

東大本郷キャンパスへのアクセス：[http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01\\_02\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html)

企画：奥彩子、沼野充義

問合せ先：電話 03(5841)7955 東京大学文学部現代文芸論研究室